

2022年4月

JETRO

テキサス州 ビジネスの魅力ガイド

ヒューストン

City of Houston

Houston is Inspired Mural, Houston, Taxes | JETRO Houston
地元芸術家が描く都市の躍動感、テキサス州ヒューストン

目次

Table of Contents

はじめに	3
全米ランキング	4
基本情報	5
経済	
概況	7
主要産業	9
企業	14
投資インセンティブ	15
高等教育／スタートアップ	17
ライフスタイル	19

ヒューストン経済の魅力 動画で早わかり

ヒューストン市のシルベスター・ターナー市長が、ヒューストン市でのビジネスの魅力を日本の方々に向けて語ります！



ヒューストン・ビジネス・ウェ
ビナー

2020年12月9日

(46分)



【免責事項】

当レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）ヒューストン事務所が米国調査会社Washington CORE, L.L.C.の協力を得て制作しました。原則2021年3月時点で入手した情報に基づきますが、一部統計等2021年末までに判明した情報を加えています。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、当レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

ヒューストンへの投資の魅力

テキサス州南東部のヒューストンは、同州最大かつ全米4位の人口の国際都市だ。住民の4分の1の出生地は米国外であるなど、国籍や人種、家族構成、所得、宗教など様々な観点から、ヒューストンは米国で最も多様性がある都市と評価されている（Wallethub）。

リスクを負っても夢に立ち向かうヒューストニアンの起業家精神、チャレンジ精神が「世界のエネルギー首都（Energy Capital of the World）」を担うエネルギー産業や貨物取扱量米国1位のヒューストン港、世界最大級の病院集積テキサスメディカルセンター、NASAジョンソン宇宙センターなど世界に冠たる大事業の推進力となってきた。

ヒューストンの主力産業は石油ガスそして化学だ。これら大手企業が地域のビジネスイベントから市民の祭典までの常連スポンサーとして名を連ねる。しかし近年はITや先端製造、航空宇宙、医療、物流など、産業の多様化が進む。石油メジャーら大手企業が起業家を支援する、ヒューストンモデルとも言える独自のエコシステム構築に向けた動きも加速し始めた。

米国の東西からほぼ等距離に位置し、陸海空の充実した交通インフラによる移動の利便性は高い。州や市による法人税、所得税が課されず、ビジネスコストを抑えられる点も魅力だ。総合的にみて他の都市圏に比べても生活費も割安である。一方、文化施設や飲食・ショッピング施設は豊富で、都会的で質の高い生活を送ることができる。ヒューストンが米国南部の首都とも言われる所以だ。

ヒューストン市を郡庁所在地とするハリス郡は2010年から2019年にかけて約62万人増えた。米国の郡単位では2位の増加数だ。ビジネスも生活もしやすい町ヒューストン。人々は既に気づいている。



全米ランキング

Top Rankings in the United States

ヒューストンは、様々な経済・社会指標ランキングで頻繁に全米上位につける主要都市である。

1位

2021年 多様性に富む都市

(2021年4月WalletHub)

1位

2019年 複数世帯住居で優良な投資案件が多い都市

(2019年8月Ten-X Commercial)

1位

2019年 最も住み心地の良い米国50都市

(West University Place : 2019年9月USA Today)

1位

2019年 STEM系労働者の平均賃金が高い都市

(2019年1月WalletHub)

1位

2019年 若者が移住している人気都市

(2019年1月The Brookings Institute)

1位

2019年 ミレニアル世代に最適な都市

(2019年4月The Langston Co)

1位

2018年 エネルギー分野で競争力の高い都市

(2019年8月Site Selection)

1位

2018年 住宅サイズが大きい都市 (人口1万人以上)

(2018年10月LandingTree)

1位

2018年 最も優れた港湾のある北米都市

(2018年5月Asia Cargo News)

基本情報

Basic Information

テキサス州南東のメキシコ湾（Gulf of Mexico）近くに位置するヒューストンは、ヒューストン・シップ・チャネル（Houston Ship Channel）と呼ばれる運河沿いにある貨物取引量が全米最大のヒューストン港や、ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル空港（George Bush Intercontinental Airport）、ウィリアム・P・ホビー空港（William P. Hobby Airport）といった大規模な国際空港を有する国際都市である。

ヒューストンの主要都市と主な空港・港



凡例

 主要地域

 北米空港旅客利用者数ランキング2019 - トップ50に含まれる空港

 U.S.News & World Report2021年 - 全米大学ランキングでヒューストンの上位大学

 米国港湾取扱量ランキング2018 - トップ50に含まれる港湾

基本情報

Basic Information

ヒューストン市が在するハリス郡（Harrison County）を含む12郡を代表するヒューストン最大の商工会議所グレート・ヒューストン・パートナーシップ（Greater Houston Partnership）が定義するグレート・ヒューストン（Greater Houston Region）は、ハリス郡、オースティン郡（Austin County）、ブラゾリア郡（Brazoria County）、チェンバーズ郡（Chambers County）、フォートベンド郡（Fort Bend County）、ガルベストーン郡（Galveston County）、リバティ郡（Liberty County）、モンゴメリー郡（Montgomery County）、サンジャシント郡（San Jacinto County）、ウォーカー郡（Walker County）、ウォラー郡（Waller County）、ワートン郡（Wharton County）の12郡で構成されている。

一方、連邦行政予算管理局（Office of Management and Budget：OMB）が大都市統計地域（metropolitan statistical area：MSA）として定義するヒューストン・ザ・ウッドランズ・シュガーランド大都市圏（Houston-The Woodlands-Sugar Land Metropolitan Area）は、ハリス郡、オースティン郡、ブラゾリア郡、チェンバーズ郡、フォートベンド郡、ガルベストーン郡、リバティ郡、モンゴメリー郡、ウォラー郡の9郡である。

グレート・ヒューストンに含まれる郡

（グレート・ヒューストン・パートナーシップの定義）



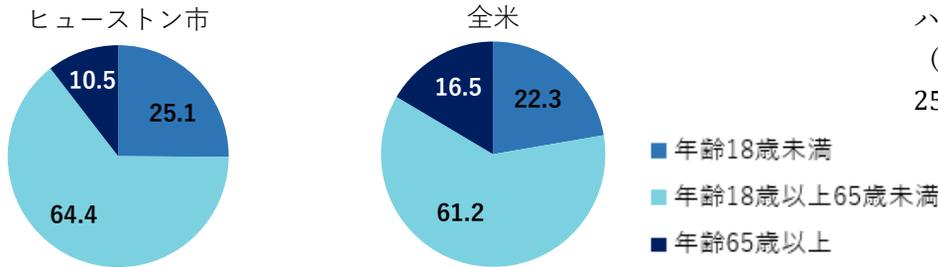
凡例 📍 グレート・ヒューストンに位置付けられる郡

ヒューストン市人口（単位：人）

人口*	ヒューストン市	テキサス州	米国全体
2010年	2,095,517	25,146,091	308,758,105
2019年	2,320,268	28,995,881	328,239,523
人口増減率（%）	10.7	15.3	6.3

*米国勢調査局 2010年4月1日時点、2019年7月1日時点の推計。
以下データは特記無い限り同局

ヒューストン市と全米の人口に占める年齢別内訳（2019年、単位：%）



ヒューストン市と全米の人種構成（単位：%、2019年）

人種	ヒューストン市	テキサス州	米国全体
白人	57.0	78.7	76.3
黒人（アフリカ系アメリカ人）	22.6	12.9	13.4
アメリカ先住民とアラスカ先住民	0.3	1.0	1.3
アジア人	6.8	5.2	5.9
ハワイ先住民とその他太平洋諸島の住民	0.1	0.1	0.2
2種類以上の人種	2.2	2.1	2.8
ヒスパニック（ラテンアメリカ人）	45.0	39.7	18.5
白人（ヒスパニック（ラテンアメリカ人）以外）	24.4	41.2	60.1

ヒューストン市と全米の25歳以上に占める高卒・大卒率（調査期間：2015～19年）

	ヒューストン市	米国
25歳以上の高卒率	78.9%	88.0%
25歳以上の大卒率	32.9%	32.1%

ヒューストン市 政治

市長：シルベスター・ターナー（Sylvester Turner、民主党）。現在2期目、任期は2024年1月2日迄
政党性：ヒューストン市が所在するハリス郡（Harris County）は民主党支持層が多く、2020年大統領選では、ジョー・バイデン氏（民主）がドナルド・トランプ氏（共和）を得票率で約56%対約43%で上回った。

日本－ヒューストン市関係

- ・在ヒューストン日本国総領事館管轄
- ・在留邦人数 4,268人（2020年10月1日現在 総領事館調）
- ・アメリカ州政府協会在日事務所：テキサス日本事務所 渡邊 博之 代表
- ・ヒューストン市の姉妹都市：千葉県千葉市（1972年～）

全米2位

ヒューストン市を郡庁所在地とするハリス郡の2010～19年の人口増加数は約62万人で郡単位では全米2位

州内1位

ハリス郡の人口471万人（2019年）はテキサス州254郡中最多

経済概況

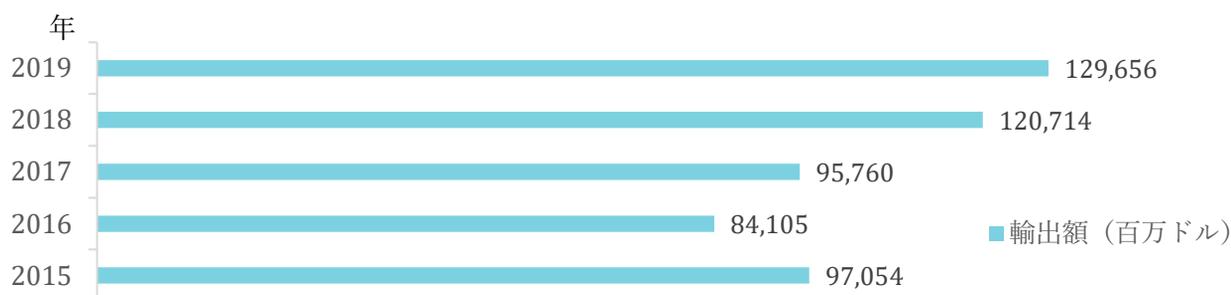
Economy

テキサス州の主要大都市圏の経済規模（2020年）

大都市圏	名目GDP (百万ドル)
ヒューストン・ザ・ウッドランズ・シュガーランド大都市圏	488,165
ダラス・フォートワース・アーリントン大都市圏	534,807
オースティン・ラウンドロック・ジョージタウン大都市圏	168,436
サンアントニオ・ニューブラウンフェルズ大都市圏	132,116
米国全体	18,820,862

データ：米国経済分析局

ヒューストン・ザ・ウッドランズ・シュガーランド大都市圏の輸出額（調査期間：2015年～19年）



データ：米国国際貿易局

ヒューストン市の世帯数と所得（調査期間：2015～19年）

世帯・所得データ	ヒューストン市	テキサス州	米国全体
世帯数	858,374	9,691,647	120,756,048
平均世帯人数	2.65	2.85	2.62
世帯所得（中央値、ドル）	52,338	61,874	62,843
貧困率（%）	20.1	13.6	10.5

データ：米国国勢調査局

ヒューストン・ザ・ウッドランズ・シュガーランド大都市圏の労働人口・失業者数

労働データ	2019年10月		2020年10月	
	ヒューストン 大都市圏	米国全体	ヒューストン 大都市圏	米国全体
労働人口（人）	3,449,631	165,151,025	3,429,442	162,083,614
失業者数（人）	124,867	5,589,429	265,523	10,706,622
失業率（%）	3.6	3.4	7.7	6.6

データ：米国労働統計局

経済一概況

Economy

ヒューストン・ザ・ウッドランズ・シュガーランド大都市圏の 職業別雇用数・平均賃金（2019年5月）

職業	雇用者数（人）		平均年間賃金（ドル）	
	ヒューストン 大都市圏	米国全体	ヒューストン 大都市圏	米国全体
全体	3,052,170	146,875,480	54,490	53,490
マネジメント	163,940	8,054,120	126,520	122,480
ビジネス・財務	156,470	8,183,750	84,050	78,130
コンピュータ・数理	84,040	4,552,880	96,260	93,760
建築・エンジニアリング	84,560	2,592,680	109,620	88,800
自然科学、社会科学	34,680	1,288,920	84,210	77,540
コミュニティ/社会サービス	26,450	2,244,310	52,410	50,480
法務	24,770	1,150,780	110,270	109,630
教育、訓練、司書	177,250	8,886,600	56,460	57,710
アート、デザイン、エンター テイメント、スポーツ、メ ディア	31,720	2,017,810	56,120	61,960
医療・看護・技師	165,350	8,673,140	82,530	83,640
医療補助	110,590	6,521,790	26,900	31,010
保安警備	73,870	3,498,800	45,110	49,880
飲食業	280,000	13,494,590	24,470	26,670
土地建物清掃メンテ	87,320	4,429,100	26,680	31,250
パーソナルケアとサービス	47,940	3,303,200	28,870	31,260
販売・営業	300,320	14,371,410	44,290	43,060
事務/管理補助	419,280	19,528,250	41,150	41,040
農業、漁業、林業	4,500	484,750	34,620	31,340
建設・採掘	193,950	6,194,140	48,350	52,580
設置、保守、修理	133,010	5,713,450	50,560	50,130
生産	193,460	9,158,980	44,720	40,140
運輸・運搬	258,690	12,532,030	39,260	37,920

データ：米国労働統計局

経済－主要産業

Major Industries

グレーター・ヒューストンでは、古くから石油・ガス産業で栄えたが、現在では多様性に富んだ人材と蓄積された専門知識を活かし、医療、デジタルテクノロジー、製造、貿易などの様々な産業が発展している。ヒューストンは米国で最もビジネス環境が充実した都市の一つとして、世界各国の企業の本拠地選ばれている。Fortune誌が選ぶ2020年米国のトップ企業500社（Fortune 500）のうち、米国の都市圏として4番目に多い22社がグレーター・ヒューストンに本社を構えている。また同誌の2020年世界のトップ企業2,000社（Global 2000）でも、同地域に拠点を置く企業20社がランクインしている。大企業が集中する背景には、著しい人口増加や人材の豊富さに加え、規制面やコスト面でビジネスが優遇されていることがある。特にテキサス州では州レベルの法人税と所得税が課されないため、全体の税負担を低く抑えながら事業を行うことができる。また、ジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル空港からは1日180以上の都市への直行便が発着するアクセスの良さや、生活費を安く抑えながら質の高い生活を楽しむ点も企業を惹きつけている。



グレーター・ヒューストンのスカイビュー

ヒューストンのダウンタウン地区には、Fortune 500企業9社を含む多数の企業の本社が集中し、ここからライトレールの線路に沿ってテキサスメディカルセンターに至る区間は、アクセラレーターやコラボレーションスペースなどスタートアップを支援する施設が集中する「イノベーション・コリドー（Innovation Corridor）」となっている。ダウンタウンの南西には世界最大級の複合医療施設テキサスメディカルセンターがあり、医療関連の研究開発の拠点となっている。また、西部には、

フィリップス66（Phillips 66）やコノコフィリップス（ConocoPhillips）などのエネルギー関連企業の本社が集中する「エネルギー・コリドー（Energy Corridor）」と呼ばれる地区がある。南東のクリアレイク（Clear Lake）地区にはNASAのジョンソン宇宙センター（Johnson Space Center）や宇宙港を擁するエリントン空港（Ellington Airport）があり、航空宇宙産業の拠点となっている。



経済－主要産業

Major Industries



ヒューストン市の旗

ヒューストン市

ヒューストンを代表する主要産業



エネルギー



航空宇宙



ライフサイエンス・
バイオテクノロジー



先進製造業



デジタル
テクノロジー



運輸・
ロジスティクス

グレーター・ヒューストンを代表する主要産業には、①エネルギー、②航空宇宙、③ライフサイエンス・バイオテクノロジー、④先進製造業、⑤デジタルテクノロジー、⑥運輸・ロジスティクス等がある。

なお、主要産業の記載に当たっては、グレーター・ヒューストン・パートナーシップのウェブサイト及び資料を参考に作成した。実際に競争力の高い産業もあるが、今後の成長を見込んでいる産業も含まれている。

経済－主要産業

Major Industries



エネルギー Energy



ヒューストン港沖の貨物船

「世界のエネルギー首都（Energy Capital of the World）」と称され、油田地帯に囲まれたヒューストンは、20世紀初めより石油産業が栄え、天然資源探査、生産、輸送、マーケティング、供給、テクノロジーなど様々なエネルギー関連産業の世界的中心地に発展した。グレーター・ヒューストンに拠点を置くエネルギー関連企業数は4,600社に上り、米国の石油・ガス関連上場企業の約3割が本社を置く。エネルギー関連の職に就く人は23万7,000人を

超え、米国の石油・ガス掘削に関する雇用の約3分の1がこの地域で生み出されている。水圧破碎や大水深での採掘などの最新技術の開発も盛んに行われ、複数の大規模な石油化学関連施設も建設されており、石油化学産業も急速な成長を遂げている。また、エネルギー企業やこの分野の第一人者が地域に多く集まったことで、太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーや、エネルギーとデジタルテクノロジーを組み合わせた「エネルギーテック」などの新しい分野を含む幅広いエネルギー産業のビジネスチャンスが拡大している。



航空宇宙 Aerospace and Aviation

グレーター・ヒューストンは、全米屈指の大手を含めた500社を超える航空・宇宙関連企業が集中するなど、航空宇宙産業の中心地となっている。2019年の航空機、宇宙機、航空・宇宙関連部品の総貿易額は29億ドルに上る。ヒューストン南東部のクリアレイク（Clear Lake）には、米航空宇宙局（National Aeronautics and Space Administration：NASA）の重要拠点であるリンドン・B・ジョンソン宇宙センター（Lyndon B. Johnson Space Center：JSC）がある。また、ヒューストン南東部のエリントン空港の敷地内にあるヒューストン宇宙港（Houston Spaceport）では、弾道飛行式の宇宙機や再使用型宇宙往還機の発着施設に加え、テクノロジー事業の創出を支援するインキュベータースペースを含む研究施設や、大規模な製造設備も備えている。さらに、宇宙科学の世界的研究機関であるライス大学のライス宇宙研究所（Rice Space Institute）やヒューストン大学の宇宙建築学科など、各教育機関が独自性の高いプログラムや研究の場を提供している。



ジョンソン宇宙センターにあるスターンV ムーンロケットの展示

経済－主要産業

Major Industries



ライフサイエンス・バイオテクノロジー

Life Sciences and Biotechnology

世界最大級の複合医療施設であるテキサスメディカルセンター（TMC）の存在により、医療機器製造、製薬、医学研究などのライフサイエンス産業はヒューストンの一大産業に発展した。グレーター・ヒューストンには、1,760以上の関連企業や医療・研究機関が拠点を置き、32万人以上の雇用を支えている。グレーター・ヒューストンのライフサイエンス関連スタートアップに対するベンチャーキャピタルやプライベートエクイティファンドの2018年の総投資額は約1億6,100万ドルに上り、TMCも様々なスタートアップ支援事業を展開している。



テキサスメディカルセンターの航空写真

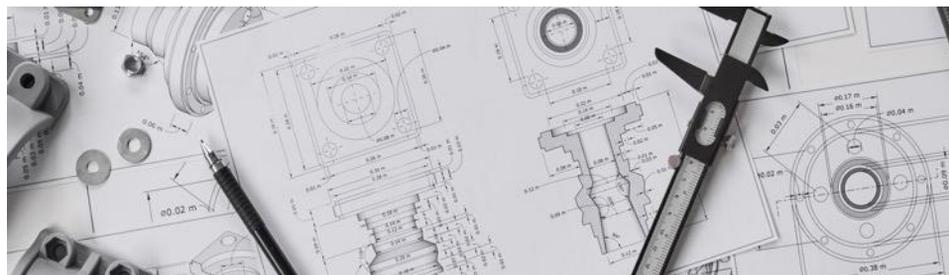


先進製造業

Advanced Manufacturing



ヒューストンは地理的な利便性や充実した交通網による輸送コストの低さを武器に、製造業の重要拠点として発展している。グレーター・ヒューストンに拠点を置く製造業者は約6,400社あり、23万人超の雇用を支えている。専門分野としては特に金属製品、機械、化学製品を製造する企業が多く、製造業全体の雇用の半数以上を創出しているほか、セラピューティクス（治療学）、食品・飲料などの新たな産業も根付きつつある。同地域の製造業者による生産額は800億ドルに上る。グレーター・ヒューストンの製造業のGDPは、全米の都市圏でロサンゼルス大都市圏に次ぐ2位であり、生産力・雇用創出力ともに米国有数の都市となっている。



経済－主要産業

Major Industries



デジタルテクノロジー Digital Technology

リンドン・B・ジョンソン宇宙センター（JSC）を擁し、世界のエネルギー首都であるヒューストンでは近年、工学分野の優秀な人材や技術が集中している。ソフトウェア開発、プログラミング、データベース管理といった分野の急成長に伴い、クリーンテクノロジーやソフトウェア関連のスタートアップ企業を支援するインキュベーターやアクセラレーターの数も増えはじめている。グレーター・ヒューストンには8,200社のテクノロジー関連企業が拠点を置き、そのうち500社はベンチャーキャピタルの投資を受けたスタートアップ企業である。2014年以降、グレーター・ヒューストンのスタートアップ企業には522件の資金調達案件を通じてベンチャーキャピタルから延べ19億ドルが投資されており、その半数近くはライフサイエンスや医療に関するテクノロジー企業に投資されている。



運輸・ロジスティクス Transportation & Logistics

ヒューストンは陸・空・海すべての交通インフラが充実しており、米国内外に物資を運ぶための輸送手段に事欠かない。立地面では、東海岸と西海岸からの距離がほぼ等しく、米国のあらゆる大都市に空路数時間でアクセスでき、ダウンタウンから約37kmの位置にあるジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル空港からは1日180以上の都市への直行便が運航している。空港システムと連携した高速道路網が整備されており、州間高速道路10号線、45号線、69号線が交わる位置にある。特に69号線は、カナダ、米国中西部の工業地帯、テキサス、メキシコをつなぐ「NAFTAスーパーハイウェイ」構想の一部として建設が進められている重要路線である。



ヒューストン港に停泊している運搬船

また3つの一級鉄道が走り、約1,300kmに及ぶ鉄道網が張り巡らされている。グレーター・ヒューストンには4,600の運輸・倉庫施設と900の長距離トラック事業所があり、1,200社のトラック輸送会社、1,000社以上のロジスティクスサービス業者、通関業者、3PL（サードパーティー・ロジスティクス）が拠点を置き、13万1,000人以上が運輸・倉庫業に従事している。水路においても、ヒューストン港はテキサス州最大の港であり、外国貿易貨物の取扱量で全米1位を誇る海上貿易の一大拠点となっている。

経済－企業

Major Companies

ヒューストン市の事業所数、マイノリティ所有事業所数、 退役軍人所有事業所数（2012年）

事業所の種類	総数
事業所	260,347
マイノリティ所有事業所	155,654（事業所数比59.8%）
退役軍人所有事業所	20,817（事業所数比8%）

データ：米国情勢調査局

Fortune 500にランクインしたヒューストン市に拠点を置く上位10社（2020年）

順位	企業名	業種	売上* （億ドル）
27	フィリップス66（Phillips 66）	石油精製・小売	1,095.5
56	シスコ（Sysco）	食料品卸売	601.1
93	コノコフィリップス（ConocoPhillips）	石油採掘・生産	366.7
98	プレーンズ・GP・ホールディングス（Plains GP Holdings）	原油・天然ガスのパイプライン	336.6
101	エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ（Enterprise Products Partners）	原油・天然ガスのパイプライン	327.8
129	ベーカー・ヒューズ（Baker Hughes）	石油・ガス関連の設備・サービス	238.3
142	ハリバートン（Halliburton）	石油・ガス関連の設備・サービス	224
148	オクシデンタル・ペトロリウム（Occidental Petroleum）	採掘・原油生産	219.7
186	EOGリソースズ（EOG Resources）	採掘・原油生産	173.8
207	ウェイト・マネージメント（Waste Management）	廃棄物処理	154.5

注：売上は昨会計年度（Last Fiscal Year）の数値。
出典：Fortune発表を基に作成



ダウンタウンヒューストンのビル街

投資インセンティブ

Investment Incentives

ヒューストン市に投資する企業へのインセンティブには、税制上の優遇措置、助成金・融資、特別区域などがある（その他、テキサス州政府が提供する税優遇措置等もある。詳細は別冊「テキサス州」の投資インセンティブに関する解説部分を参照）。

ヒューストン市の主な投資インセンティブ（2020年12月時点）

インセンティブ	概要
税軽減措置（Tax Abatements）	荒廃地域の再開発や雇用創出、地域経済の牽引、公共建築物への投資などに関するプロジェクトに対する税負担が軽減される制度。荒廃した家屋などの資産価値の向上や正規雇用の維持または創出、プロフォーマ財務情報の提出などの条件を満たす必要がある。
フリーポート免税（Freeport Tax Exemption）	175日以内に州外に持ち出す物品、商品、原鉱、認定済み航空会社が使用する航空機や航空機部品などに対する動産税が免除される制度。ヒューストン市を含むハリス郡内の多くの市や学区で導入されている。
州法380章に基づく融資（380 Agreements）	テキサス州の地方自治体法380章に基づき、ヒューストン市に拠点を置き市の経済成長や雇用創出を促進する事業に対し、市が融資や成果に基づく補助金を最長10年間提供する制度。申請するには、建築または改修する施設の資産価値や雇用創出、投資額などの条件を満たす必要がある。
外国貿易地域（Foreign Trade Zone：FTZ）	FTZに指定された区域内では外国から到着した貨物や商品を、通関手続きを経ずに保管でき、米国内に出荷されるまで関税の支払いが免除される。ヒューストン港が管理するFTZ 84は全米有数の大規模なFTZである。
オポチュニティーゾーン（Opportunity Zone：OZ）	低所得地域への投資を促すために定められた制度。貧困率などの条件を満たし、州知事が指定し財務省の認定を受けたOZにファンド（Qualified Opportunity Fund）を通じて投資することで、税制上の優遇を受けることができる。ヒューストン市内には99か所のOZが存在する。

出典：グレーター・ヒューストン・パートナーシップ



投資インセンティブ

Investment Incentives



ダウンタウンヒューストンのビル街

経済開発組織・商工会議所

ヒューストンの主要な経済開発組織および商工会議所・経済団体等は以下のとおり。

組織	概要
ヒューストン市経済開発部門（City of Houston Economic Development Division）	ヒューストン市長の指揮下で市の経済成長を促進するための政策の作成、実施、管理を担当する組織。ヒューストン市への進出を検討している企業を支援するため、テキサス州の経済開発部門やハリス郡、グレーター・ヒューストン・パートナーシップ（Greater Houston Partnership：GHP）といった他の経済開発組織や商工会議所と連携しながら世界各国の企業に向けた多数のインセンティブを運用している。
グレーター・ヒューストン・パートナーシップ（Greater Houston Partnership：GHP）	ハリス郡を含む12郡を代表するヒューストン最大の商工会議所であり、生活、雇用、ビジネス面での地域発展に向けた様々な活動を行っている。企業向けには、立地選定の支援やインセンティブの評価や申請の支援、データの提供、業界関係者や地域の経済開発組織の紹介などのサービスを提供している。Fortune 500にランクインするような大企業も含め1,000以上の企業や組織が加入している。

データ：ヒューストン市経済開発局

高等教育 / スタートアップ

Higher Education / Startup

主要大学

ヒューストン市に所在する著名な大学としてライス大学（Rice University）とヒューストン大学（University of Houston）がある。

ライス大学

1912年設立の私立大学。US Newsの全米大学ランキング20位以内に常にランクインする名門校であり、2021年ランキングでも16位に選ばれている。学際的な研究に力を入れており、特にナノテクノロジー、材料科学、ハイパフォーマンスコンピューティング、政策分析などの分野で世界をけん引している。ベイカー公共政策研究所（James A. Baker III Institute for Public Policy）は、ペンシルバニア大学の2020年調査で、大学附属シンクタンクとエネルギー・資源研究系シンクタンクの両ランキングで世界1位に選ばれている。また、NASAとの関係が深く、ライス宇宙研究所（Rice Space Institute）を中心に数多くの共同研究を行っている。ライス大学への2017年の連邦政府全体からの助成金は8,446万9,000ドルであった。



ライス大学

ヒューストン大学



ヒューストン大学ダウンタウンキャンパス

1927年設立の公立大学で、テキサス州の大学で3番目に学生数が多い。法科大学院（University of Houston Law Center）は医療法と知的財産法のプログラムが著名である。研究分野は、エネルギー、材料、心理学、レーザーマッピング、国土安全保障、創薬、先進製造、二酸化炭素排出抑制、健康など幅広い。技術の実用化や起業に向けたイノベーションエコシステムの形成に注力しており、医学大学院のない公立大学としては技術移転によるロイヤリティ収入が全米で最も多い。ヒューストン大学への2017年の連邦政府全体からの助成金は6,003万3,000ドルに上った。

コミュニティカレッジ

1971年に設立されたヒューストンコミュニティカレッジ（Houston Community College）は、ヒューストン教育区（Houston Independent School District : HISD）やヒューストン市内とその近郊の6つの学区に20以上のキャンパスを持ち、5万人以上の学生が在籍する大規模なコミュニティカレッジである。学位取得プログラムのほか、職業訓練やキャリア開発、生涯学習などのプログラムを提供している。人材育成支援では、地元企業や政府機関に従業員や職員のスキルアップを目的としたコーポレート・カレッジ（Corporate College）と称する研修イニシアチブを提供している。語学、PCスキル、製造スキル（AutoCADやフォークリフト運転技能、応急救護手当など）、労働安全衛生、リーダーシップ、経営手法など様々なコースが用意されている。

高等教育 / スタートアップ

Higher Education / Startup

スタートアップ

ヒューストンのスタートアップ企業を支援する主な組織は以下のとおり。

組織	概要
● Chevron Technology Ventures	大手エネルギー企業シェブロン（Chevron）が1999年に設立したVCで、同社の業務の改善につながるビジネスソリューションやテクノロジーの開発を支援している。対象領域はエネルギー、材料、ITなど。なお、シェブロンはThe Ion内のコラボレーションスペースのリース契約を交わした最初の企業であり、Chevron Technology Venturesが同スペースの管理を担当する予定である。
● Mercury Fund	2005年に設立され3億ドル以上の運用資産を持つVC。米国中部の起業家を支援することを目的としており、SaaS、クラウド、データサイエンス・AIプラットフォームなどのテクノロジー業界を対象に、アーリーステージのスタートアップに出資している。
● The Ion	ヒューストンのイノベーション活動の中核を担う施設として、ライス大学がミッドタウン地区に建設を進めているアクセラレーターハブであり、2021年春の開設が予定されている。アクセラレータープログラムには、ヒューストン市、マイクロソフト（Microsoft）、インテル（Intel）との提携に基づき、スマートシティソリューション関連スタートアップを支援するIon Smart and Resilient Cities Accelerator、NASAジョンソンとの提携によるIon Aerospace Innovation Acceleratorなどがある。
● Houston Exponential	2017年に設立され、スタートアップ企業や投資家、政府、学術機関をつなぐ活動を通して同市のイノベーションエコシステムの成長を支援している。
● TMCx Innovation Institute	2014年に設立されたテキサスメディカルセンター（TMC）のイノベーション支援施設。医療機器やデジタル医療業界のスタートアップを対象にしたアクセラレーター「TMCx」やコワーキングスペース、医療製品開発のための研修プログラムを提供している「TMC Biodesign」などから成る。
● MassChallenge Texas	国際的なアクセラレーターMassChallengeのテキサス支社として2017年に設立され、オースティンとヒューストンにオフィスを構える。ハイテク、医療、エネルギーなど幅広い業界のスタートアップを対象としている。
● Founder Institute	2009年にシリコンバレーに設立され、世界90か国、200以上の都市で活動している大手アクセラレーターのヒューストン支社。
● Greentown Labs Houston	マサチューセッツ州に本社を構える、気候変動関連スタートアップを支援するインキュベーターのヒューストン支社で、2021年春に開設予定。

● VC ● アクセラレーター ● インキュベーター

出典：各組織のウェブサイト

世界で最も大規模な気候変動関連技術開発インキュベーターである『グリーンタウンラボ』がヒューストンに来ることを歓迎する。

ヒューストンは昨年、初めての「気候変動アクションプラン」を発表したが、『グリーンタウンラボ』により、当地のイノベーションのエコシステムが拡充し、気候変動関連の技術開発が加速化され、市が掲げる気候変動目標の達成がより近づいてくるだろう。

ヒューストンはグローバルエネルギーの大きな変革の起爆剤となる。

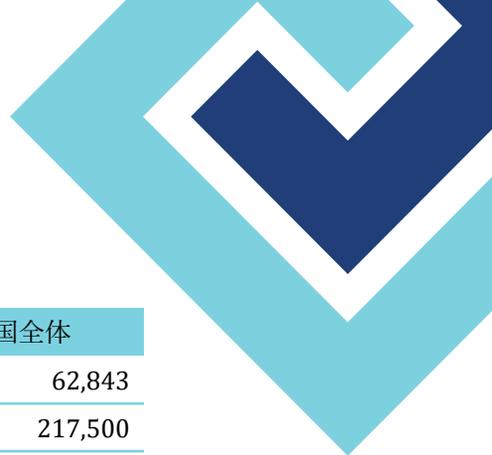
2021年2月

ヒューストン シルベスター・ターナー市長

『グリーンタウンラボ』建設工事初日での記者会見

ライフスタイル

Lifestyle



生活基本データ（調査期間：2015年～19年）

生活基本データ	ヒューストン市	米国全体
世帯所得（中央値、ドル）	52,580	62,843
住宅価格（中央値、ドル）	171,800	217,500
家賃（中央値、ドル）	1,041	1,062
持ち家率（%）	42.3%	64.0%

データ：米国国勢調査局



人気居住エリア

ヒューストンの北に位置する郊外の住宅地である（The Woodlands）は、1,900社の企業が拠点を置き、オフィスビルやショッピング・飲食施設、集合住宅などの開発が進んでいる。また、ヒューストンの南西に位置する住宅地のシュガーランド（Sugar Land）や、ヒューストンの西に位置し、新興住宅地シンコ・ランチ（Cinco Ranch）を有するケイティ（Katy）なども人気が高いと言われている。

日本関係コミュニティ

ヒューストンにある日本人コミュニティには、ヒューストン日本商工会（Japan Business Association of Houston）やヒューストン日米協会（Japan-America Society of Houston：JASH）、ヒューストン日本商工会が運営する日本語補習校のヒューストン日本語補習校（Japanese Language Supplementary School of Houston）などがある。

交通

ヒューストン西地区のスカイビュー

ハリス郡都市交通局（The Metropolitan Transit Authority of Harris County：METRO）が、ライトレール（次世代型路面電車）「メトロレール（METRORail）」やヒューストン市内のMETRO路線バス網を運営している。米国国勢調査局によると、2015年から2019年におけるヒューストン市の16歳以上の住民の通勤手段は車、トラック、バンを一人で運転が77.7%、車、トラック、バンの相乗りが10.4%、公共交通機関（タクシーを除く）が3.7%、徒歩が2.0%の順になっており、車通勤が9割近い。また、同期間のヒューストン市の通勤時間平均は27.7分で、全米平均の26.9分より若干長かった。



メトロレール

ライフスタイル

Lifestyle

ヒューストンには、市や州が運営する公園が多数あり、自然の中でジョギングやピクニック、カヤック、音楽演奏などを楽しむ人々も多い。さらに、世界的に著名な交響楽団、バレエ団、オペラカンパニー、劇団を擁するヒューストンは、米国でも特に舞台芸術が盛んな都市の1つでもある。



ヒューストンメモリアルパーク

スポーツチーム・イベント

ヒューストン・アストロズ (Houston Astros : MLB)、トヨタ・センター (Toyota Center) を拠点とするヒューストン・ロケッツ (Houston Rockets : NBA)、ヒューストン・テキサンズ (Houston Texans : NFL) など。全米男子プロゴルフツアーのヒューストン・オープン (Houston Open) や、世界最大の家畜品評会・ロデオショーのヒューストン・ライブストックショー&ロデオ (Houston Livestock Show & Rodeo) も人気のスポーツイベントである。

博物館／美術館

ダウンタウンのシアターディストリクト (Theater District) にはアレー・シアター (Alley Theatre)、ジョーンズ・ホール (Jones Hall)、舞台芸術ホビー・センター (The Hobby Center for the Performing Arts) などの劇場やコンサートホールが集中している。また、ダウンタウンの南に位置するミュージアムディストリクト (Museum District) には、ヒューストン美術館 (The Museum of Fine Arts, Houston) など18の美術館や博物館がある。

住民気質

ヒューストンには新しく来る人を歓迎する気風があり、様々な地域からの移民を受け入れ、多様性に富んだ文化を育んできた。また、昔から起業家精神を重んじており、リスクを負っても大きな挑戦をする傾向が強いと言われている。



A graphic element consisting of a horizontal teal bar on the left that transitions into a diamond-shaped geometric pattern on the right. The pattern is composed of concentric, interlocking lines in teal and dark blue, creating a stylized, maze-like appearance.

JETRO

ジェトロ・ヒューストン事務所
1221 McKinney Street, Suite 4141,
Houston, Texas 77010, U.S.A.
Email: inqu-hou@jetro.go.jp

写真：引用記載が無いものはShutterstockの素材を基に作成。Images used under license of Washington CORE with Shutterstock.com.

制作協力 Washington CORE, L.L.C